

若者の声、うねりに

8/31
福

安保法案反対行動

世代や地域超え

音楽やライン駆使共感

安全保障関連法案をめぐり野党が敵対し、対峙する国会を30日、最大規模の反対派市民が取り囲んだ。抗議の声は全国にも広がった。運動の広がり背景には、コンビニで印刷できるシールやSNSなど新たなツールを駆使する若者たちの存在が、平和な日常が奪われる危機感(専門家が後押し)を後押ししている。世代や地域を超えたうねりが広がっている。(1面に本記)



安保法案に反対し、国会前で抗議の声を上げる若者たち。30日午後

「民主主義って何だ」「これだ!」
国会議事堂を背に、大学生らのグループ「SEALDs(シールズ)」の中心メンバーで大学4年の奥田愛基さん(23)がドラムのリズムに合わせて、周囲を埋め尽くした群衆が応じた。
労働組合や政党のほりも立ち、従来こうした運動を支えてきた参加者も多かったが、ひととを自立したのがシールズだ。メンバーは無料通信アプリLINE(ライン)でつながった約200人。今春結成され、毎週金曜日に固

会前で「戦争したがる総理は要らない」「憲法守れ」と抗議行動を続けてきた。
斬新なスタイルが共感を呼び、参加者は飛躍的に増え、活動は全国に広がる。速いテンポのコールや音楽を盛り上げ、ツイッターで情報を発信。洗練されたチラシやネットから取り込んだコンビニで簡単に印刷できる新たなツールも活用。参加の感度を上げた。

高崎者が「O.T.D.」(オールズ)のメンバーが「MIDDLE」(ミドル)を設立したりと、今や反対運動の呼び、参加者は飛躍的に増え、活動は全国に広がる。速いテンポのコールや音楽を盛り上げ、ツイッターで情報を発信。洗練されたチラシやネットから取り込んだコンビニで簡単に印刷できる新たなツールも活用。参加の感度を上げた。

とされてきた母親たちも7月「だれの子とも愛しはばい」を合言葉に「安保関連法案に反対するママの会」を立ち上げ、子連れで東京・渋谷を主行進して話題を集めた。メンバーで5歳の子ともを持つ池田愛子さん(28)は国会前のステージで「みんな誰かの子でも。何としても廃案にしたい」と呼び掛けた。会の賛同者は2カ月弱で約1万9千人に上った。池田さんは取材に「いかげんな答弁を繰り返す首相さん、子どもを未来を託せない」と力を込

めた。
●問われる主権
何が若者を突き動かすのか。「元々」とは何なのか。著書がある五野井郁夫、高千穂大准教授は「若者は法案で自分たちがダメージを受ける恐れを敏感に感じ、取極のこそを見抜こうとしている」と指摘。
法案を疑問視する世論の広がりを、88年の安保闘争では軍国主義の時代に突いたという「戦前の記憶」が動いたといわれる。今回は平和な日常を維持したいという「戦後民主主義の記憶」が人を動かしていると解説する。

30日、奥田さんらは機上(1)

う話した。「法案が成立したらどうするのか。通った後も、次の選挙も、問われているのは主権者のおれたち。だから、声を上げ続けなきゃいけない」